令和 7 年度（2025 年度）日本緑化工学会賞 講評

日本緑化工学会　学会賞選考委員長　福井　亘

令和 7 年度の選考は，学会ホームページ，コミュニティレター，green-if などを通じて，受賞候補者の推薦を依頼し、令和 8 年（2026）6 月 5 日まで推薦を受け付けました（当初は 5 月 15 日締め切りでしたが，推薦者が少なかったため延長しました)。

推薦された候補者について学会賞選考委員会で慎重な審議を行い、本年は研究奨励賞 1 名、功績賞 1 名に授与することとなりました。受賞者および受賞理由は以下のとおりです。

【研究奨励賞】

受賞者：矢尾板 晃弘　氏（株式会社ドーコン）

題目：凍結融解環境下における植生工の地盤補強効果と斜面安定性に関する研究

受賞理由：矢尾板晃弘氏は，寒冷地における植生工の適用性向上を目的として，草本植物の根系による地盤補強効果と凍結融解作用の影響に関する研究に取り組んできました。特に，植物根系が土の力学特性に及ぼす影響を定量的に評価し，斜面表層の安定性との関係を明らかにしている。これらの成果は，日本緑化工学会誌に掲載された査読付論文 2 編（いずれも筆頭著者）として公表されています。これらの研究成果は，植生工における地盤補強メカニズムの理解を深化させるとともに，在来種を活用した寒冷地における斜面安定対策に資する知見を提供するものであり，今後の発展も期待され評価できます。

以上の理由から，矢尾板氏の研究奨励賞の授与を決定いたしました。

【功績賞】

受賞者：吉﨑 真司　氏（東京都市大学　名誉教授）

題目：乾燥地や海岸における防風・防砂と緑化技術に関する功績

受賞理由：吉﨑真司氏は，長年にわたり緑化工学分野，特に沙漠化地域および海岸砂丘における治砂緑化と防災林の造成技術に関する実践的な研究において多大な業績を挙げ，本分野の学術的・技術的発展ならびに日本緑化工学会の発展に大きく貢献されてきました。その成果は，乾燥地における風食防止のための緑化技術に関する研究を端緒として，アラブ首長国連邦や中国・内モンゴル自治区などの乾燥地における治砂緑化技術の確立に尽力されました。国内の海岸防災林に関しても，津波に対する応答や Eco-DRR の視点を取り入れた海岸林再生の研究に精力的に取り組まれています。その研究成果は，日本緑化工学会誌，LEE 誌に多数の論文・技術報告として掲載されました。

また，学会活動においては会長，副会長，理事，監事等も務められ，本学会の発展に多大な貢献をされました。

以上の功績から、吉崎氏へ功績賞の授与を決定いたしました。